

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	15019
課題名	放射線診療における医療被ばく実態調査及び線量評価と医療被ばくデータベース構築に向けた技術的検討
研究期間	西暦 2015 年 6 月 18 日 ～ 2016 年 3 月 31 日
利用する情報、検体	<p>■診療情報（詳細：対象患者さんの年齢、性別、体重、CT 撮影部位・範囲、CT 装置、撮影方法、撮影条件、線量データ）</p> <p><input type="checkbox"/>手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ）</p> <p><input type="checkbox"/>血液</p> <p><input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>※以下の期間に収集した情報、検体が対象となります 西暦 2014 年 4 月 1 日 ～ 2015 年 3 月 31 日</p>
研究の意義、目的	<p>CT 検査などの放射線を使った画像検査では、診断に必要な画像を得ることと、患者さんの被ばく線量が必要最小限に抑えられることの双方に留意しながら検査を行なっています。放射線を使った検査を行う場合には、その検査が本当に必要かどうか、検査によって得られるベネフィット（診断が付き治療方針を決めることができる）がリスク（放射線被ばくによる将来的な影響）よりも大きいかどうかを判断します（正当化）。そして必要と判断できる時にだけ、余分な被ばくを避けながら、適正に検査を実施する（最適化）ということが国際的な原則となっています。現在、国際放射線防護委員会（ICRP）では放射線診断において医療被ばくの最適化が図るように診断参考レベル（DRL）を使用することを勧告していますが、我が国において DRL を設定するためには、まず、各医療機関で使用されている線量データを収集・蓄積して分析することが必要です。</p> <p>放射線医学総合研究所では医療被ばくにおける防護を患者側のベネフィットとリスクの両方の視点から、国際的に議論できる科学的知見を得るための研究を行い、関連規制やガイドライン策定に貢献する活動を行なっています。</p> <p>本研究では、医療施設の CT 装置あるいは PACS に格納されている放射線診断のデータを収集する仕組みを構築して、医療被ばくデータを格納した放射線防護目的で利用可能なデータベース構築の検討を行うことを目的としています。</p>
研究の方法	<p>本研究は放射線医学総合研究所・医療被ばくプロジェクト（研究責任者：赤羽恵一）との多施設共同研究です。本院に設置された CT 装置あるいは PACS に登録された診療情報を、匿名化したうえで、放射線医学総合研究所に設置されているデータベースに登録します。放射線医学総合研究所では、各施設から登録されたデータを分析して放射線診療の実態を調査します。</p>
その他	
個人情報について	<p>利用する情報、検体からは、お名前や住所など、個人が特定できる情報は削除して取り扱いますので、個人情報が外部に漏えいすることはありません。研究成</p>

	果発表（学会発表、学術論文への投稿）の際にも、個人が特定できる情報は利用しません。
問い合わせ等の 窓口	所属：放射線部 氏名：佐藤 順一 電話番号：0166-69-3451